

颯爽と

生徒指導部から（2・3年生へ）

== 未来の花を咲かせるために ==

2026年4月30日

季節ごとに目を楽しませてくれる花たちは、花を咲かせているとき以外の長い時間を葉を茂らせて養分を蓄え、じっと根を張り巡らせて、花を咲かせるための準備をしています。

ある著名な陶芸家の「過去が咲いている今、未来の蕾で一杯の今」という言葉があります。今の自分はこれまでの自分が作った自分、未来の自分をどう作るかは今の自分次第です。草木が今ある場所で精一杯生きているのと同じように、私たちも「今ここ」でできる努力を全力で続けなくてはなりません。美しい花を咲かせるための蕾はみんなの中にたくさん育ちつつあるはずです。高校生活のいろんな経験を通して、自分なりの美しい花を咲かせて、希望に胸を膨らませて新たな道を進むことができるよう願っています。

同じ年代に生まれ、同じ高校を選んで入学し、同じ校舎に学んでいる。このこと自体、とんでもない確率の中から引き当てた奇跡とも言える「縁」です。同じ教室で机を並べることはもちろん、クラスが違っても、話したことがなくても、廊下ですれ違うだけの関係性でさえ、令和8年度の鹿工生は、そんな奇跡的な「縁」で結ばれたチームです。

みんながみんなを思いやり、みんなで力を合わせて、みんなが毎日、笑顔でいられる学年、元気な学校を作ってほしい・・・、それが私たちの一番の願いです。

『なりたい自分になろう・・・自分を誇れるように・・・』

「自分のことが好きですか？」って聞かれて、「はい、好きです」って言える自信満々の人は、そういないでしょう。

たいていの人は、自分の欠点はすらすら言えても好きなところ(長所)は、なかなか言えないものです。

面接ではよく「あなたの長所は何ですか？」と質問されます。それに対して「私の長所は、・・・なところですよ。」と、少しでも自信を持って、答えられるように、今日から自分を好きになる努力を始めてみては？

TVで頑張ってるスポーツ選手を見て、応援したくなる気持ち、苦しみ乗り越えて懸命に生き抜くドラマの主人公への共感、誰でも抱くそんな気持ちを自分に向けられるのでは？

頑張ってる自分を自分で応援してあげよう。
頑張った自分を自分でほめてあげよう。
ちょっと難しく言うと、『自己肯定感』。
自分を自分で認めてあげる、自分の行いに誇りがもてること。

「できない・・・」とか、「どうせ自分は・・・」とか、を口にする人もいるけど、そんな言葉は、自分の可能性、未来を否定する「頑張らないための宣言」、やる前から、失敗したときの言い訳を探してる「弱虫の心」。

頑張っても叶わないことも世の中にはたくさんある・・・
頑張ったのにみじめな失敗をすることも何度もある・・・
それでもいい。頑張ったことは残るから。
何よりも頑張ろうとすることが素晴らしい。顔晴れることが。

少しずつでも頑張ることを始めよう。一生懸命はかっこいい。
そしたら、近い将来、少しは自分に胸を張れるようになっていくはず。

「私の長所は、何事にも前向きに、諦めず、努力を続けられるところです。」と胸を張って言えるようになっていくはずですよ。

戦後80年を迎えた昨年の広島平和記念式典。こども代表「平和への誓い」の中で、小学6年生が「多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人ひとりが相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずですよ。」と話していました。奇跡的な「縁」で結ばれたチーム鹿工の仲間なら、なおさら「思いやりの心」がもてるはずですよ。一人でも「傷つき、悲しい思いをする人」をつくらないように「考動」しましょう。自分のことが好きでいられるように、自分の学校に誇りを持つように、そして、みんなの未来が明るく輝くように・・・。

